

中国大学風景－ 北京、大連、ハルビン

吉川 榮和 名誉教授 S40年卒
特定非営利活動法人 シンビオ社会研究会

目次

- はじめにー在職時と退職後6年間の関わり
- 中国の教育制度ーとくに大学
- 大連理工大学ではー軟件学院とは
- 清華大学とハルビン工程大学ではー中国の原子力開発と大学のかかわり
- 中国点描ーハルビンでの滞在生活からー
- まとめ

京大在職時電気系教室の担当講義

- (全学共通科目)
電気回路と微分方程式
ヒューマンインタフェースの心理と生理
- (3年生)
発電工学
- (4年生)
原子力工学→マンマシンシステム工学

それぞれの講義テキスト

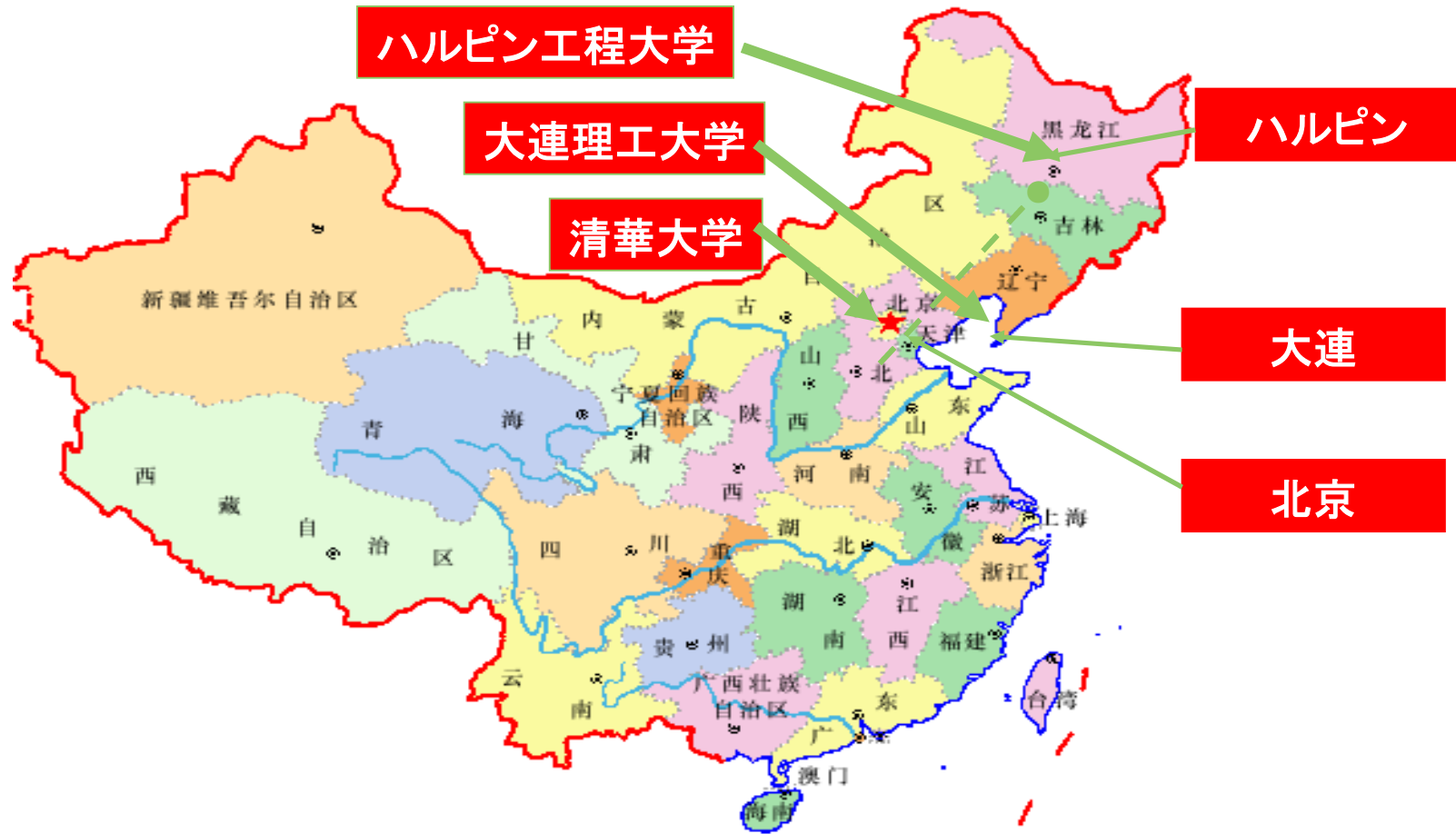


電力発生工学(電気学会、2003年)



ヒューマンインタフェースの心理と生理
(コロナ社、2006年)

中国の大学との関係



北京—清華大学 原子力・新エネルギー技術研究院
大連—大連理工大学 軟件学院
ハルピン—ハルピン工程大学 核科学・技術学院

北京—清華大学

- 1911年 義和団の乱の対米賠償金により米国留学予備校として清華学堂創立
- 1928年 国立清華大学に改名
- 1937年 日中戦争に伴い長沙に移転、北京大学・南開大学と連合し、国立長沙臨時大学を組織。
- 1938年 長沙臨時大学が昆明に移転され、国立西南連合大学と改名。
- 1946年 北京北西の清華園に移転し、文・法・理・工・農など5つの学院、26の学部で清華大学を設立
- 教育部直属の国家重点大学(14の学院と56の系の総合大学)



大連—大連理工大学

- 前身は中華人民共和国建国直前、1949年4月開校の大連大学の工学院
- 1950年7月に大連大学を廃止、大連大学工学院は独立して大連工学院に改組
- 1988年3月に大連理工大学に改名
- 中国教育部直属重点大学
- 周りは情報サービス会社の集中地である大連ソフトウェアパークと大連ハイテクパーク



本部(大連市南西の新科技园地域と隣接)



軟件学院キャンパス遠景
(大連市北東の經濟開發特区内)

ハルピンーハルピン工程大学

- 1953年、朝鮮戦争時の中国軍の軍事技術の遅れを痛感した当時の中国共産党幹部の指導により、ハルピン市に軍事技術大学としてソ連の協力を得て発足
- 1960年代中ソ論争のために、軍事技術大学自体は中国南方に移設され、残った校地で船舶技術学院と改名し、通常の大学に改編
- 現在は、ハルピン工程大学と改名し、工業・情報部直属の重点国立大学。船舶技術、海洋開発、原子力の三大分野を特色としている



中国の教育制度、とくに大学の制度

- 初—中—高 教育年限
以前 5年—3年—3年
現在 6年—3年—3年
- 全国一斉大学入学試験 毎年6月上旬2日間
- 成績に応じて希望大学を2つ申請
- その後申請した大学を訪問して希望学科の受け入れが決る

中国の教育制度、とくに大学の制度

- 大学 学院・系 研究院
- 大学 4年
- 大学院 修士のみ **2+0.5**年 博士**4**年以上
- セメスタ: 日本と半年ずれている
- 第一学期 **8**月末から**25**週 (2月第**3**週)
- 第二学期 **2**月中旬から**26**週 (8月第**3**週)
- 入学式 **9**月上旬 卒業式 **7**月中
- 入学前**8**月から**4**週間 軍事訓練がある(男女とも)

中国の教育制度、とくに大学の制度

- 大学の格付け 全国重点大学→211工程
- 学院では現場技術者教育重点 研究院では研究者育成
- 大学の中の異なったキャリアパス 共産党組織と大学を構成する3職種の組織
- 教授・副教授・研究副教授 高級エンジニア・エンジニア 事務職
- 大学キャンパスは一つの村—教職員、学生、退職者の生活共同体
- 9月10日 教師の日（国の法律で制定）

大連理工大学 軟件学院

- 軟件学院の概要
- 軟件学院のカリキュラム
- ヒューマンインタフェースの講義
- デイベート支援システムの開発
- デイベートの実施

軟件学院の概要(2011年現在)

- 2001年経済技術開発区に開校
- 5つの系—ソフトウェア工学、ネットワーク工学、エンベデドシステム工学、ビジネス理工学、デジタルメディアアート
- 本科生募集人員—800名うち日本語強化系300名
- 研究院全日制修士募集人員—約200名

軟件学院のカリキュラム

- 2005年当時のもので5つの系は、ネットワーク工学の代わりに大型計算機コースがあった。
- 4年間で修得すべき総単位数は185.5単位、2312時間+38週、必修84%、選択16%と必修の比重が大きい。
- 各系共通の必修主要科目として、計算機科学入門、計算機機能構造、離散数学、データ構造、C++高級プログラミング設計、コンパイラ原理、オペレーティングシステム原理、データベース原理、ソフトウェア工学概論、計算機ネットワーク
- 英語能力の重視および日本語を第2外国語にする

カリキュラム全体構成

			必修		選択	
			単位	時間/週	単位	時間/週
課程教授	高級基礎課程	人文社会科学基礎	10	160時間		
		自然科学基礎	20	320時間		
		語学基礎	21.5	344時間	9	144時間
		計算機基礎	2	40時間		
	系別課程	共通科目	44.5	784時間		
		系別特色科目	16	296時間		
	個性要求(課程教授)				14	224時間
	小計		114	1944時間	23	368時間
実践教習			38	38週		
講座			4.5			
個性要求					6	
合計			156.5	1944時間 38週	29	368時間
まとめ			総計185.5単位、2312時間、38週 (必修 84% 選択 16%)			

カリキュラム構成（個別科目抜粋）

	科目	単位
人文社会科学基礎課程	思想道徳修養	1.5
	法律基礎	1.5
	毛沢東思想概論	1.5
	マルクス主義哲学原理	2.0
	マルクス主義政治経済学原理	1.5
	鄧小平理論概論	2.0
	小計	10
	自然科学基礎課程	工業数学基礎
線形代数		3
確率と統計		3
大学物理		3
小計		20

	科目	単位	週
実践教育	軍事訓練	4	4
	体育	4	4
	労働	1	1
	認識実習	1	1
	両課実習	1	1
	計算機実装	1	1
	システム構成と構築	2	2
	ソフトウェア工学プロセス設計	3	3
	データベースプロセス設計	3	3
	ネットワーク総合実験	2	2
	卒業論文	16	16
	小計	38	38

カリキュラム構成（個別科目抜粋）

	科目	単位	
系別課程	C/C++プログラミング設計基礎	4	
	計算機科学入門	2	
	C++高級プログラミング設計	3	
	計算機機能・構造	3.5	
	データ構造	4	
	コンパイラ原理	4	
	共通科目	データベース原理	3
		オペレーティングシステム原理	4
		離散数学	4
		ソフトウェア工学概論	4
人工知能基礎		2.5	
計算機ネットワーク		3	
ネットワーク情報セキュリティ		3.5	
小計		44.5	

	科目	単位	
ソフトウェア工学系	ソフトウェアユーザ要求定義	2	
	データベースプログラム設計	3	
	オブジェクト指向システム分析・設計(UML)	3	
	必修特色科目	Windowsプログラム設計・高級デバッグ技術	3
		ソフトウェアプロジェクト管理	2
	ソフトウェア品質保証・試験	3	
	小計	16	
	デジタルメディアアート系	造形能力訓練	3
芸術設計基礎		3	
動画キャラクター造形		2	
立体造形		1.5	
必修特色科目		芸術概論	2
		CAD	3
		映像理論	1.5
		小計	16

軟件学院でヒューマンインタフェースの日本語による講義

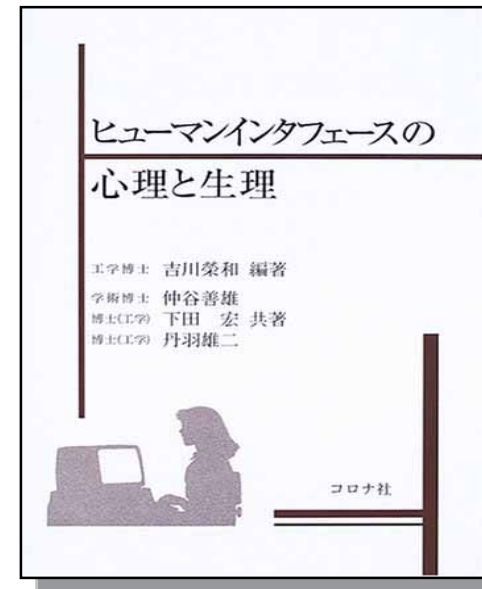
軟件学院教学楼



本部キャンパスから30kmほど離れた
大連市北東の經濟開發特区内

2006 6 15

週2回 1回2時間 2ヶ月



ヒューマンインタフェース
= 人机界面

大連2 CIS社でのディベート支援システム 開発

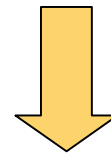
- ディベートとは、特定のテーマについて賛成、反対側に立場を決めて相互に議論を交わし、議論の優劣を競う知的ゲーム
- 京大在職時、ドクタ学生の伊藤京子さん(現在米国UCSD留学中)が計算機化ディベート支援システムを研究
- 伊藤さんの作成したシステムの多角的な欲張り機能を簡素化の一方、ユーザインタフェース機能の強化、多言語機能の追加など全面的に作り変えたもの



大連理工大学本部キャンパス
近傍の新科技园内の路明ビル
(2CIS社は5階フロア)

ディベートの効用

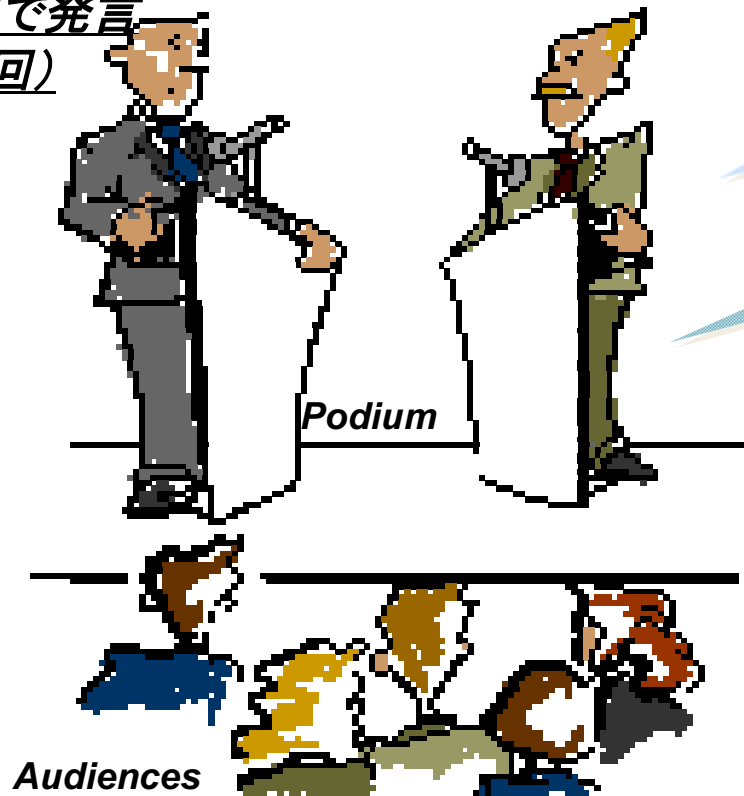
- ・ **クリティカル・シンキング** (問題を多角的に深く考えること)を養う
- ・ **ロール・プレイング** (与えられた立場にたって考え役割を演じること)により**異見**に対する寛容さを養う
- ・ 以上により、**調査能力、論理的思考力、コミュニケーション能力**を養う



- それ以外に、テーマの前提や常識を疑ったり、賛否の対立を乗り越えてアウフヘーベンを探る、問題発見能力、問題解決能力の育成にもつながる

通常のディベートの実施方法

交互に演壇で発言
(2~3回)



賛成側(2~3人)

反対側(2~3人)



審判



●この方法では限られた時間内にすべての学生にディベートで発言する機会がない

●そこでコンピュータを用いたディベート支援システムにより、全部の学生がディベートに参加し、発言できるようにする

開発したディベート支援システムの全体構成

全体の管理システム

- 計算機化ディベート支援システム
- ・学生がグループとなって賛成、反対に分かれて行う
 - ・一人の学生が反対側の学生2名の一人ずつとディベートする
 - ・同じグループ内の全メンバーのディベートを読むことはできる



メディア教室1



メディア教室2



ディベート記録の
評価支援システム

ディベート記録の閲覧

各学生のディベート記録を
見ながらメディアにおいて
教員が評価

教員



中国大連理工大学軟件学院での デイベート実施

デイベート支援システムを、3cis社サーバにインストール

- デイベートを、大連理工大学軟件学院でのヒューマンインタフェースの講義の一環として実施することにつき、国際協力室の了解を得るとともに、日本語教員にも参観してもらった。
- 対象は日本語クラスの3年生約50名（ヒューマンインタフェースの講義受講生）
- デイベートテーマは、3cis社の若いスタッフに中国学生諸君の関心のあるテーマを提案してもらった。
- デイベートは軟件学院教学楼5階の計算機室で中国語版で実施

ディベートの課題

	テーマ	争点
1	大学は起業を推進すべきである。 是か否か？	知識成果の産業化への発展 伝統教育への影響 学校収入の増加 国家教育経費の支出負担が減少
2	高学歴と一芸とでは、高学歴を重視すべきである。 是か否か？	教育事業の発展方向問題 中国の現行教育体制における弊害 現代社会の人材需要要求 自己価値の実現方式
3	遺伝子組み換え食品は禁止すべきである。 是か否か？	人間健康問題 食品産業発展への影響 遺伝子組み換え研究への影響 伝統食品産業発展への影響
4	死刑制度を廃止すべきである。 是か否か？	人権主義の提唱 国家法律制度への影響 社会安定の問題 人間性の問題
5	通信技術の発展が人と人のコミュニケーションを進化させる。 賛成か反対か？	人と人の親しい関係が失われる 人間生活の利便性 これからのコミュニケーション方式 通信技術の発展方向
6	大学コースでは、余計な基礎コースを減らすべきである。 是か否か？	全方面教育の提唱 学生の学習負担の考慮 社会発展への適応 知識の広がり



**実際のデイベート風景
大連理工大学軟件学院
計算機センター**

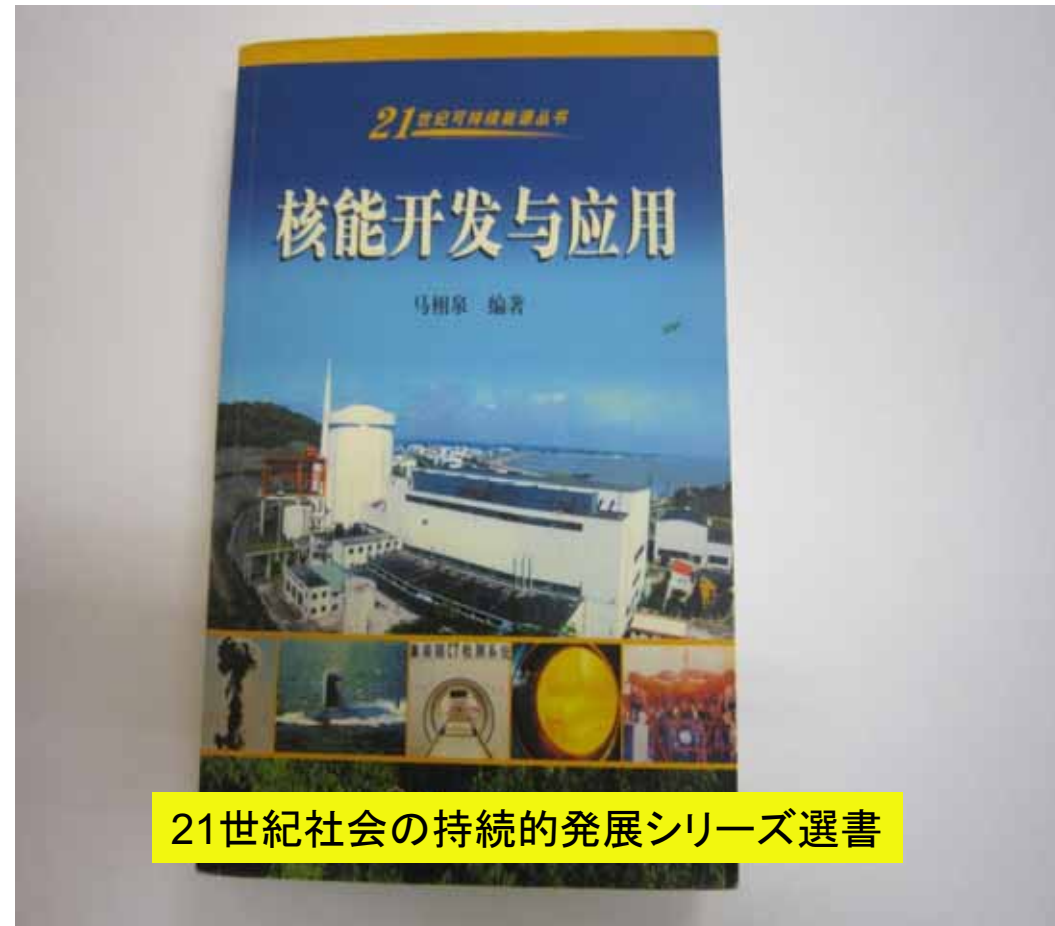
**国内でのデイベート支援システム
の活用
京大エネルギー科学研究科、
滋賀県立膳所高校**

京都と北京間でインターネットによる国際学生デイベート実験（ポスト京都プロトコルの枠組みの在り方）



中国の原子力開発と大学との関わり

- 原子力研究・原爆開発当初の経緯
- 最近の原子力開発計画
- 原子力開発への大学のかかわりー清華大学INETとハルビン工程大学CNST



原子力研究・原爆開発当初の経緯- 原子力研究

1955年1月15日 中国政府、原子力研究着手の
正式決定

- 北京大、清華大に研究院発足
- 中ソ協力協定締結(ソ連 重水炉、サイクロトロン供与)

1958年 北京房山県に研究所(現在の
中国原子能科学研究院)

1960年 中ソ論争勃発

- ・ソ連専門家の総引き揚げ
- ・以降中国による独自研究開発

1991年 中国最初の秦山原発発電開始

原子力研究・原爆開発当初の経緯- 原爆開発

- 1957年9月 中ソ技術協定(ソ連が原爆1個と設計図書の供与を約束 但し1959年一方的に協定を破棄し実行されていない)
- 1958年 青海省に基地建設着手
- 1962年 核武器研究院建設
- 1964年10月6日 新疆核武器試験場にて地上核爆発実験成功 以降、航空機投下実験、ミサイル搭載実験、水爆実験 と続く
- 1966年から約10年 文化大革命が吹き荒れ、核兵器開発指導者10名を反革命分子として拘束
- 1999年9月18日 名誉回復

現在の中国原子能科学研究所風景

研究炉CARR



高速実験炉CFER

最近の原子力開発計画

- 中国最初の原子力発電所は1991年建設の秦山原発
- 現在、東部沿海地域6サイト、14基、11,910MWが運転中（平均稼働率91.5%）、28,810MW、26基が建設中（世界全体の新規原発建設の40%）
- 2010年末までにさらに13プロジェクト、全部で37,020MWの建設計画が承認

最近の原子力開発計画

- 主要原子力グループ：東部のChina National Nuclear Corporation(CNNC) と南東部のChina Guangdong Nuclear Power Group(CGNGP)
- 建設中の主な原発は国産化3炉PWRのCPR1000で2010年現在15基
- 2006,2007年にAP1000の輸入と技術移転契約、2007年にフランスAREVA社から第3世代炉のEPR導入交渉を開始。
- 2008、2009年に中国独自の原発技術開発のためAP1000を1400MW,さらに1700MWに大型化するプロジェクトをウエスチングハウス社とState Nuclear Power Technology Corporation (SNPTC)間で協力契約を締結
- CGNGPは、CPR1000を第3世代化するACPR-1000の設計開発プロジェクトを発表

運転中の中国原発



中国核电站分布图

■ 红色字体：已建核电站
 ■ 绿色字体：拟建核电站
 ■ 蓝色字体：建立中核电站

搜狐新闻
news.sohu.com



南阳核电站

芜湖核电站
吉阳核电站

咸宁核电站 预计2011年底开工

三坝核电站

涪陵核电站

桃花江核电站
小墨山核电站

彭泽核电站 预计2011年上半年开工

红沙核电站 预计2011年开工

昌江核电站
2010年4月开工

靖宇核电站 预计在2011年7月开工

红沿河核电站 2007年8月开工
徐大堡核电站
东港核电站

海阳核电站 2009年12月一期工程开工
海阳二期核电站 拟于明年开建
石岛湾核电站
阿石岛湾核电站
石岛湾核电站

田湾核电站 一期1号机组 2007年5月投入商业运行
2号机组 2007年底前投入商业运行

秦山核电站 一期、二期、三期及扩建工程
三门核电站一期工程 一期于2009年4月开工
秦山二期扩建工程(方家山核电站) 2008年12月开工
三门核电站二期工程 有望2011年底前启动
龙游核电站

福清核电站 2008年11月开工
宁德核电站 2008年2月开工
漳州核电站
三明核电站 拟于2011年11月开工建设

大亚湾核电站 一期 1993年8月 1号机组并网发电
1994年2月 2号机组并网发电
岭澳核电站
台山核电站一期 2009年8月开工
阳江核电站 2008年12月开工
岭澳二期核电站 2005年12月开工
陆丰核电站
揭阳核电站
韶关核电站
海丰核电站

原子力開発への大学の関わり

- 従来原子力のある大学は、清華大、上海交通大、西安交通大およびハルピン工程大の4校だけだったが、最近の原発建設拡大を受けて、華北電力大、武漢科技大、四川大など原子力学科の新設が相次いでいる
- 原子炉設計研究への参画→ 清華大学 原子力・新エネルギー研究院 (INET)
- 原発運転要員の教育訓練→ ハルピン工程大学 核科学・技術学院 (CNST)

清華大学 原子力・新エネルギー研究院 (INET)

- 1960年設立以来、独自で原子炉設計開発
- Twin-core experimental shielding reactor
- 5MW nuclear heating reactor (NHR-5) : 熱電併給、空調、海水脱塩
- 高温ガス炉HTR-10 およびHTR-PM
- 大型先進PWR開発のためのキーテクノロジー研究開発センター(SNPTRD)の設立



京大在職時：清華大INET－三菱電機中研との
デジタル化中央制御盤マンマシンインタフェース
設計評価方法の共同研究



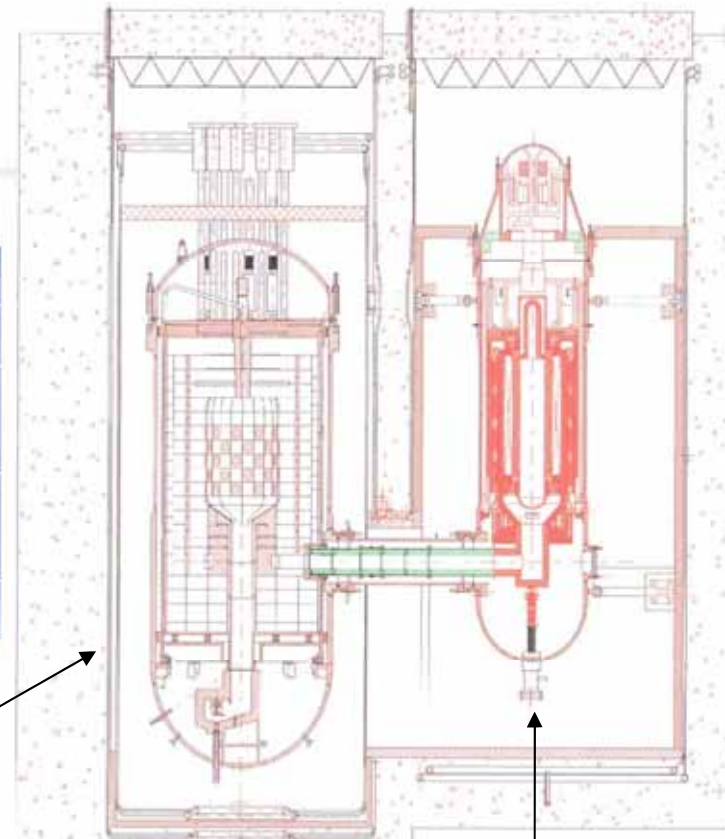
秦山第三期原発(CANDU)



高温ガス実験炉HTR-10プロジェクト



Reactor Power, MWth	10
Pressure, MPa	3
Reactor Inlet Temperature, °C	250
Reactor Outlet Temperature, °C	700
Fuel Elements Number	27000



ペブルベッド型原子炉
(6cm直径の球形燃料ボール、
冷却材はヘリウムガス)

蒸気発生器
(ヘリウムガスタービンも
検討中)

IN:T

高温ガス実験炉HTR-10プロジェクト

10 MW High Temperature Gas Cooled Reactor

1975年基礎研究開始
1986年国家支援下に
開発研究開始
1992年建設計画認可
1995年建設開始
2000年初臨界
2003年定格出力達成



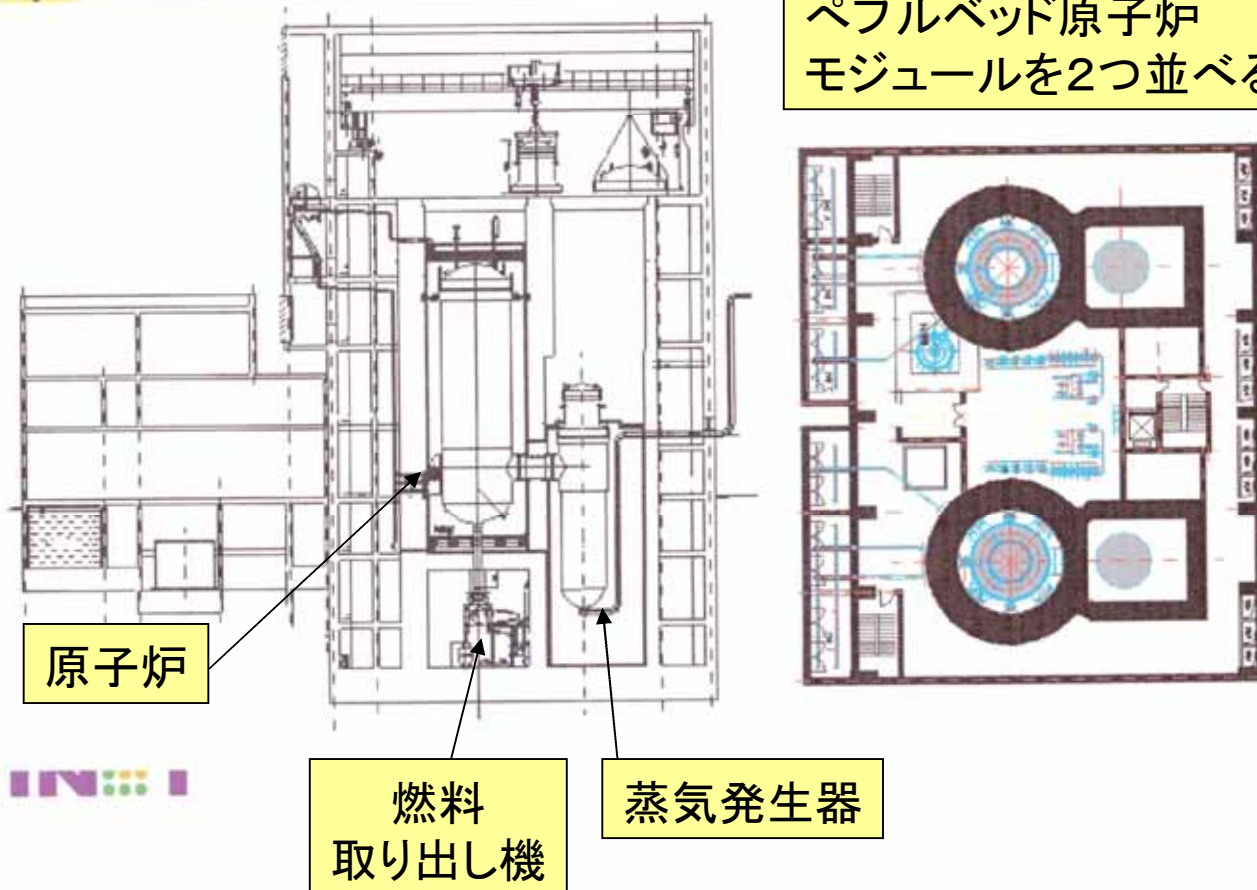
INET

北京の北方50kmの山麓

モジュール型高温ガス炉

HTR-PM reactor plant

ペブルベッド原子炉
モジュールを2つ並べる



INTEC

モジュール型高温ガス炉 HTR-PMプロジェクト

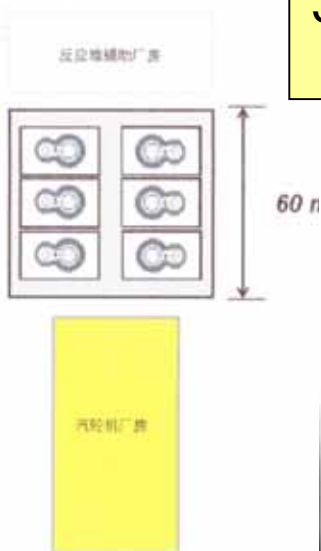
Future Multiple NSSS Modules HTR-PM Plant

発電機プラント

蒸気タービンプラント

3つのモジュール
を2列にする

IN:IT



Site Preparation



山東省石島湾に建設予定のHTR-PM

大型先進PWR開発のためのキーテクノロジー研究開発センター (SNPTRD)



国家核电技术研发中心
STATE NUCLEAR POWER TECHNOLOGY RESEARCH & DEVELOPMENT CENTER

Establishment of SNPTRD

State Nuclear Power Technology R&D Center

- SNPTRD is based on the industrial and technological advantages from SNPTC and Tsinghua University.

SNPTC

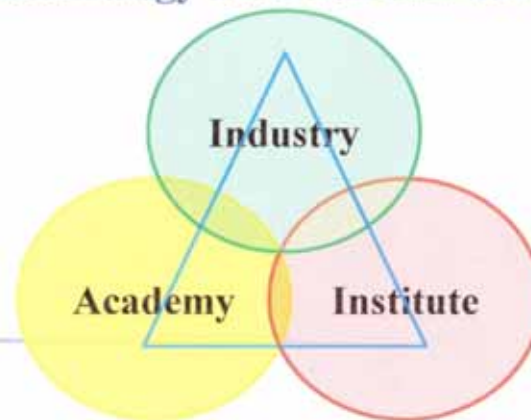
+

Tsinghua
University

=

SNPTRD

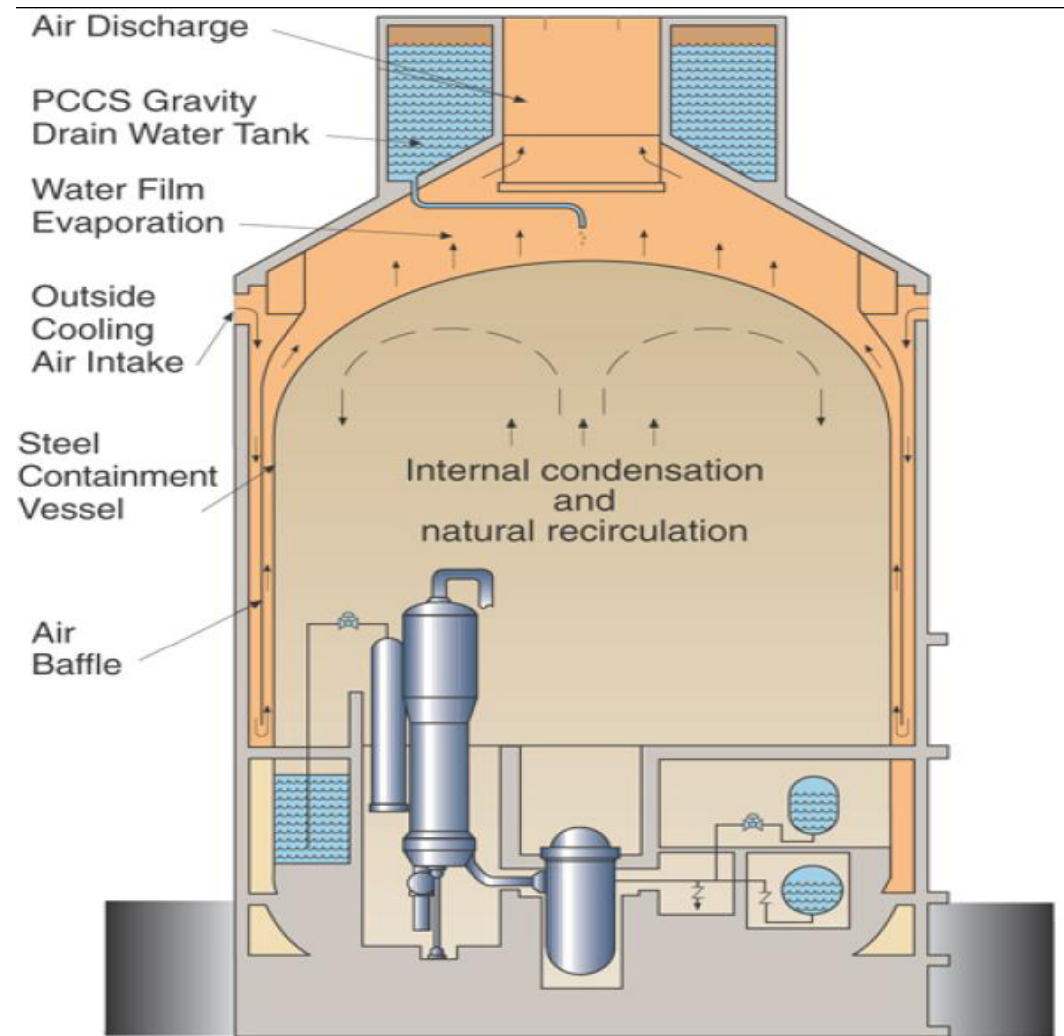
- SNPTRD combines industry with academy and institute to carry out technology research and development of nuclear power.



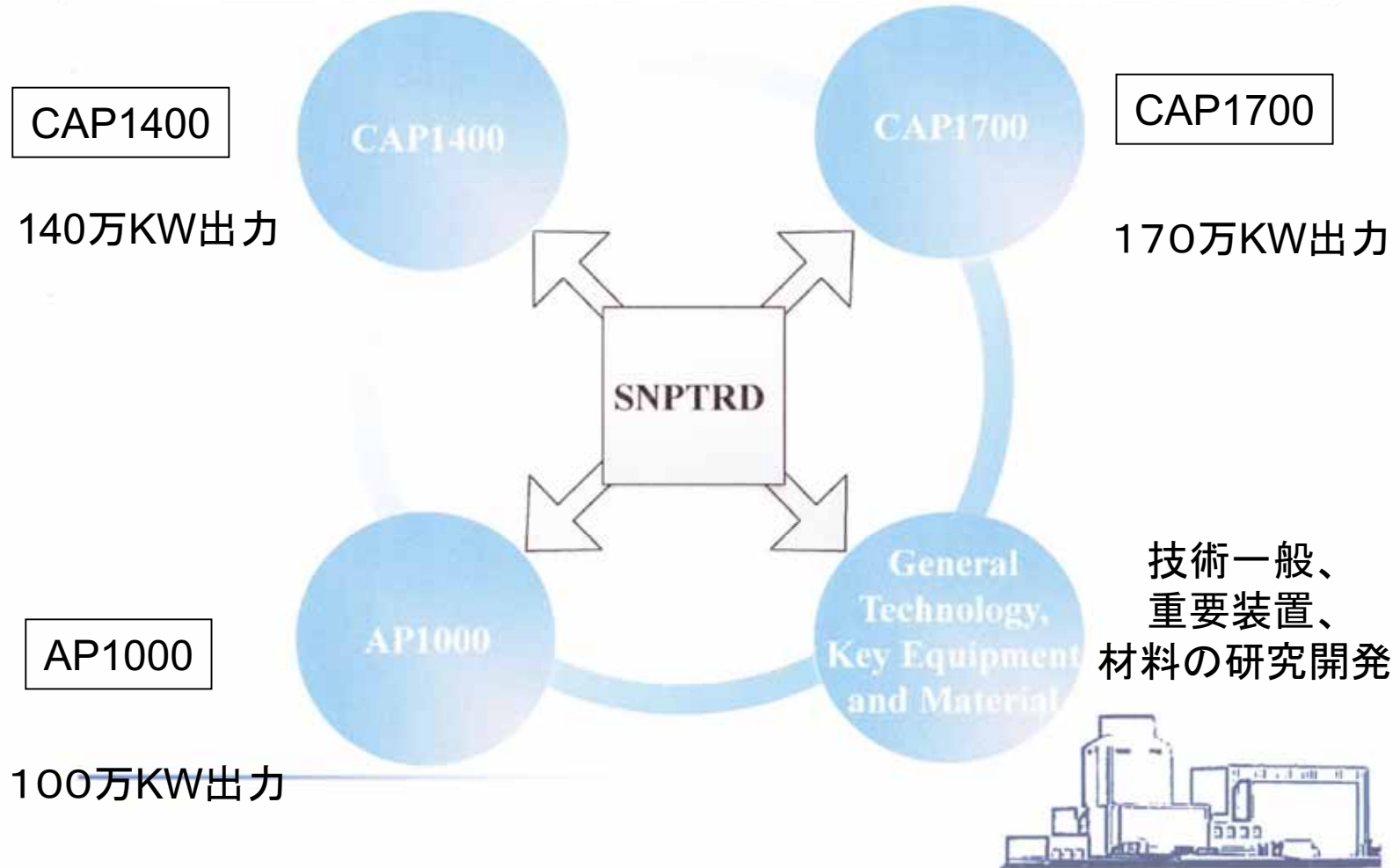
北京の清華大学近傍
に実験施設建設中



AP1000-受動安全型の先進PWR



Researching Area of SNPTRD



AP1000およびCAP1400の建設計画



AP1000建設中

AP1000計画中

AP1000 under construction
 Planned AP1000 units
 CAP1400 demonstration units

CAP1400
 実証炉予定



ハルピン工程大学 核科学・技術学院 (CNST)

- 1958年核科学工程コースの設置
- 2005年原子力発電開発政策の強化に伴い、核科学・技術学院として独立（設立目標：原子力産業のための要員訓練、高度で創造的な学生の教育、基礎研究の推進）
- 国家重点学科、施設等の指定、CAEA（中国核エネルギー機構）の支援
- 教員数：正規教員71名、客員教員23名（**111プロジェクト**による海外招へい教授を含む）
- 学生数：学部1088名、修士230名、博士43名、留学生7名で計1368名。中国の原子力学科では最大の学生数

ハルピン工程大学 核科学・技術学院 (CNST)

- 伝熱流動試験設備やプラントシミュレータ設備を有し、原子力産業界から運転員訓練の受け入れ
- 中国全大学原子力学科の教育ベルを国際レベルに向上させるためのIAEA-CAEA支援プロジェクトの世話大学
- 国際会議ISSNPの主催、国際学術誌IJNS発行など国際学術交流支援活動

大学キャンパス全景



学生活動



CNSTの実験設備

- Lab. Area: 10,000m²



Effect of rolling on Thermo-Hydraulic Performance Experimental Equipment



Sodium-loop Experimental Equipment



Condenser Comprehensive Experimental Equipment



Boiling Heat Transfer Experimental Equipment



Steam-Water Separation Experimental Equipment



Condensing, Single-phase Convective Heat Transfer Experimental Equipment

CNSTの実験設備

Undergraduate Lab



Fuel Assembly Model



Reactor Model



Radiation protection lab



Two-phase flow experimental facilities

CNSTの実験設備



Platform for training and research

CNSTでの 教育・訓練

IAEA-CAEA TC Project CPR4032



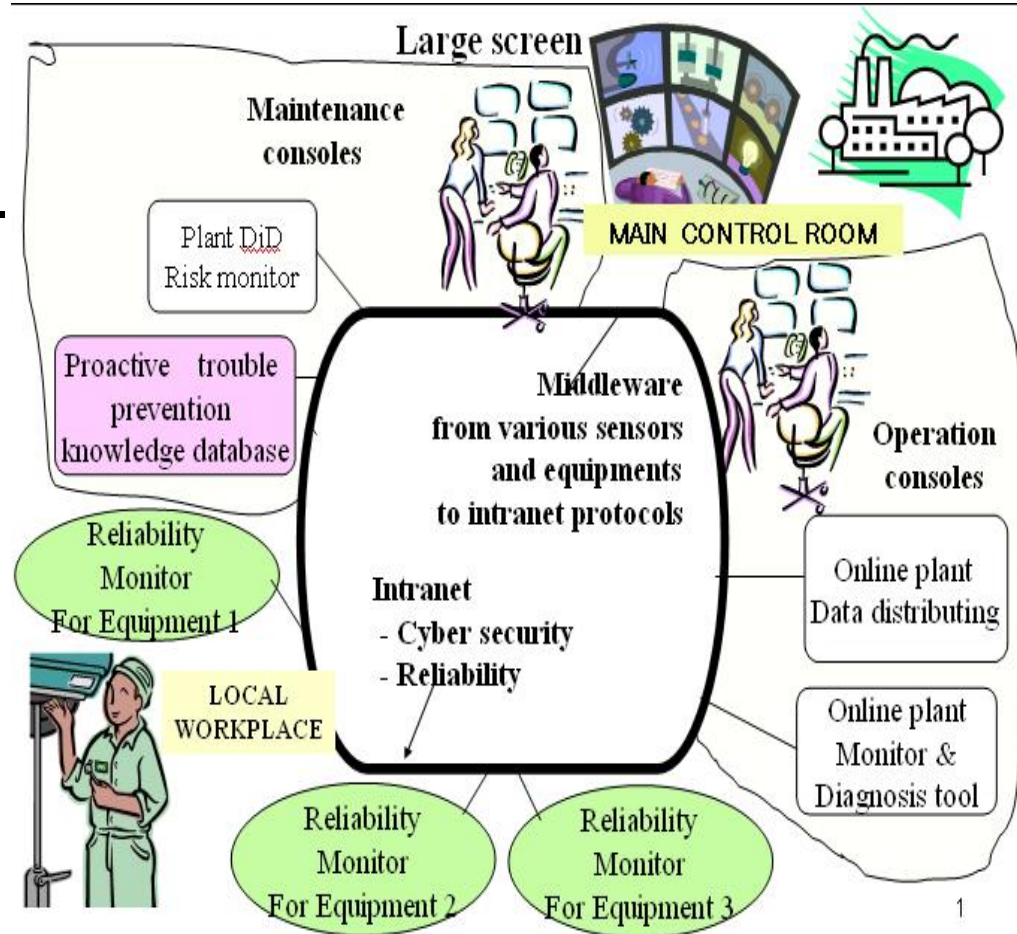
教育・訓練のまとめ

- 原子力の職業教育レベルは国際標準 (ABET standard) を目指している
- IAEA-CAEA Project CPR4032により中国での原子力教育・訓練センターの指定を受けている
- 年間当り本科生約260名、修士学生約50-80名、博士学生約10-20名で、全体として約1300人の学生が在籍している
- それ以外に原子力事業から年間約150名の原子力教育・訓練を3つの形態 (“order+ unite training”, “second bachelor”、 “elective nuclear course”) で受託している

CNSTでの研究プロジェクト概況

新規研究プロジェクト：OSS-ACR

- 67の研究プロジェクト
(原子力安全・シミュレーション技術、原子炉工学、原子力機器、原子炉燃料・材料、原子燃料サイクル、放射線検出器、放射線防護)
- 2010年度総計500万米ドル獲得

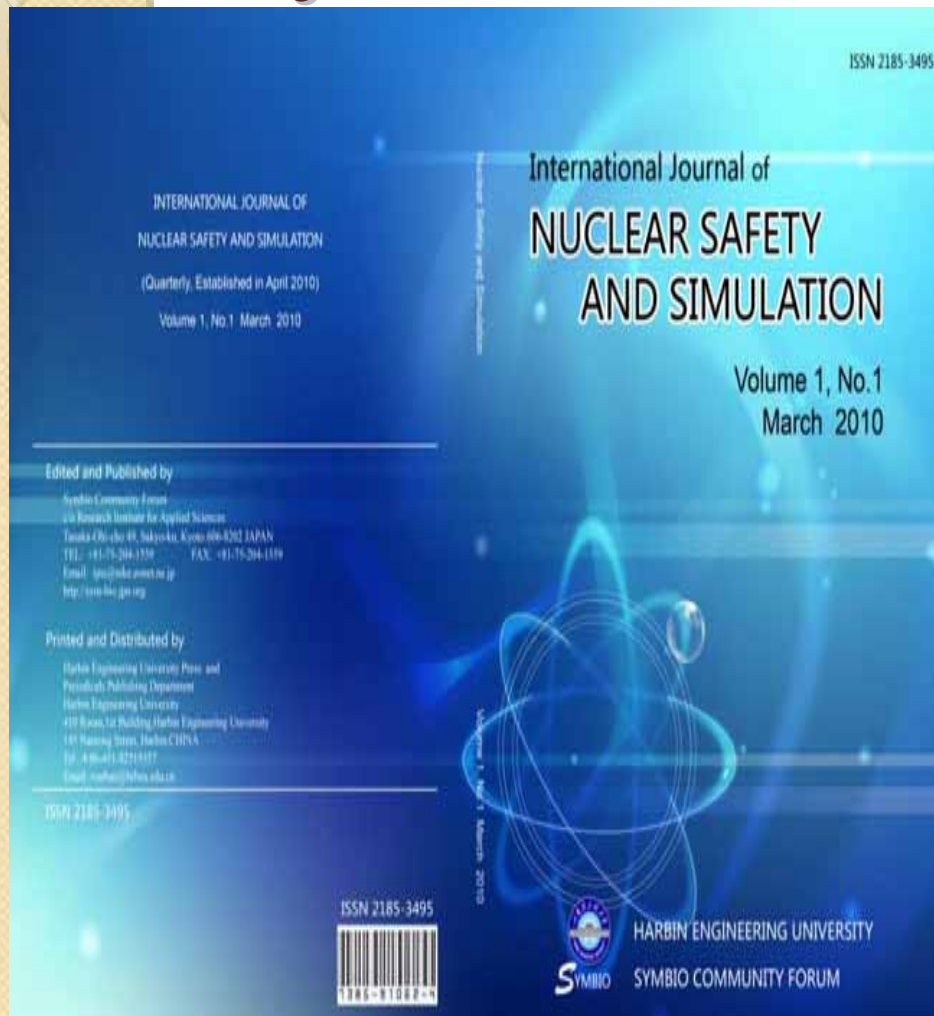


第2回21世紀の共生型原子力システムに関する国際会議の開催

ISSNP
2008



International Journal of Nuclear Safety & Simulation の発行



- 2010年より発刊
- 年4回発行の英文学術誌
- この編集発行にシンビオ社会研究会が協力しています。
- WEB版は下記シンビオ社会研究会URLから自由閲覧できます。
- <http://sym-bio.jpn.org/homepage.php>

中国点描



ハルピン点描



松花江



ソフィア寺院

ハルピン工程大学 点描

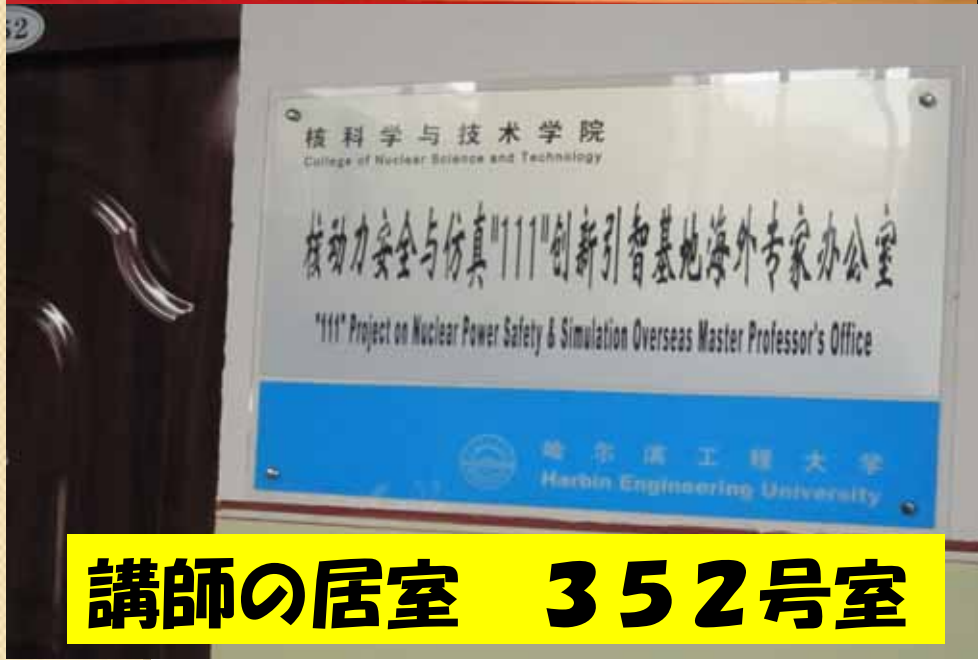


学校重要历史事件原址

一九五七年四月二十四日，全国人大常委会委员长朱德元帅视察学校，到哈军工海军工程系会议室（本室）召开座谈会。



昔



講師の居室 352号室



今


哈尔滨工程大学
硕士学位论文评阅书

硕士生学号		硕士生姓名	
专业名称			
论文题目			
对学位论文的评分			
评价指标	评价要素	满分值	评分
选题与意义	选题难度大, 属学科前沿, 具有较大理论意义和较大的现实意义。	10	
综述与总结	阅读文献量很大很新, 能够综合、全面地反映本领域的发展与现状, 归纳、总结正确。	20	
论文难度和工作量	有较大的难度和饱满的工作量, 有新思想。	30	
论文反映作者理论基础和专门知识	体现坚实的基础理论和系统的专门知识。	20	
论文体现作者的科研能力	具有从事科学研究工作或独立担负专门技术工作的能力。	10	
论文撰写	引文规范, 学风严谨; 论文层次分明, 材料翔实, 推理严密, 逻辑性强; 文字表达准确、流畅。	10	
总分	综合评定等级: 优秀 90~100 分; 良好 80~89 分; 中等 70~79 分; 及格 60~69 分; 不及格 < 60 分。	100	
专家评审意见 (请在□中画“√”)	达到硕士论文水平	<input type="checkbox"/> 同意答辩	<input type="checkbox"/> 修改后答辩
	未达到硕士论文水平	<input type="checkbox"/> 不同意答辩	
是否推荐省级优秀硕士论文	<input type="checkbox"/> 是	<input type="checkbox"/> 否	
您对论文内容熟悉的程度	<input type="checkbox"/> 很熟悉	<input type="checkbox"/> 熟悉	<input type="checkbox"/> 一般

评阅人对论文的评语 (可打印)

**中国教育部は
学位取条件としてEIやSCIの
論文掲載を要求している**

注: 评语中如属原稿中未写, 可另加附页。

评阅人(签字): _____ 评阅时间: _____
 评阅人单位: _____ 联系电话: _____
 评阅人的学科、专业: _____ 评阅人职称: _____

哈尔滨工程大学統一の修士論文審査用紙

2008年度CNST 本科生の卒業式



2008年度CNST 本科生の卒業式

大学表彰の
優秀学生



黒竜江省表彰の
優秀学生



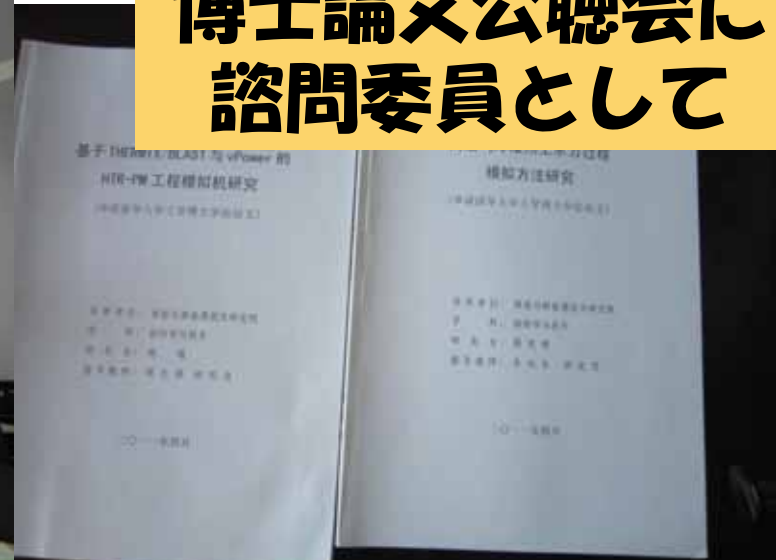
大慶での教職員研修旅行



9月10日 教師の日の贈り物



清華大学INET 博士論文公聴会に 諮問委員として



中国教育部 の外国人専門家局 黒竜江省視察



日本の歴史 その1 旅順口にて



坂の上の雲

司馬 遼太郎

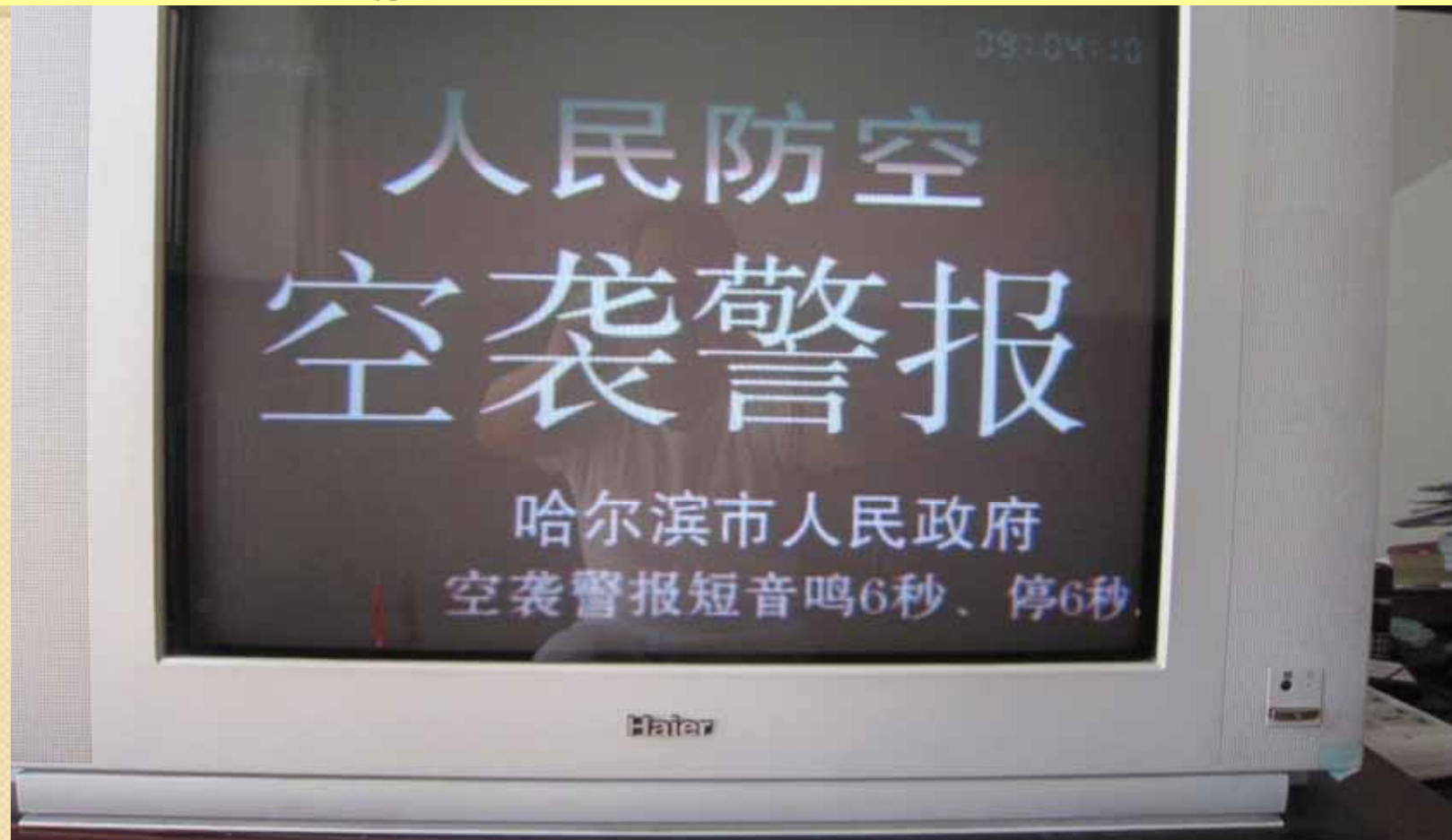
日本の歴史 その2 ハルピン駅頭

1909. 10. 26



日本の歴史 その3

ハルピン市中に鳴り響くサイレン
9月18日午前9時



日本の歴史 その4 北京 盧溝橋にて



日本の歴史 その5





日本の歴史 その5 続き

終わりに

- 講演者の若いときの日本は、欧米志向で、当時の中国は近くて遠い国だった。
- 中国は1980年代の改革開放以来、中国流の実利主義で世界中から進んだものを選び、習得して国産化し、中国の発展に活かして行く
- 毎年中国にいくたびに、町並みが変わり、車が爆発的に増えていく中国
- 人口で10倍、国土で26倍、講師の若い時代の60-70年代の日本のようにどんどん成長し、日本に追いつき、追い越し、そして米国に並ぶ国際的な存在感のある国になった
- 日本のこれからの世代が、そのような中国とどのように交流していくのかいろいろと思いをはせてきた6年間でした。



2006.8.3



ご清聴有り難うございました。

